

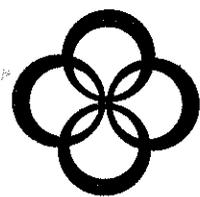
南山城水害

— 回顧する20年 —

昭和48年8月

和一束 町

京都



南山城水害

— 回顧する20年 —



和東町

鎮魂の詩

今は遠き ^{はらから}我が同胞に捧ぐ——

緑濃き ^{やまなみ}この山脈に
瀬音も高き ^{ながれ}この溪流に
喜々として笑みかわし 日かな送りし友は今なく
夏は逝かんとす

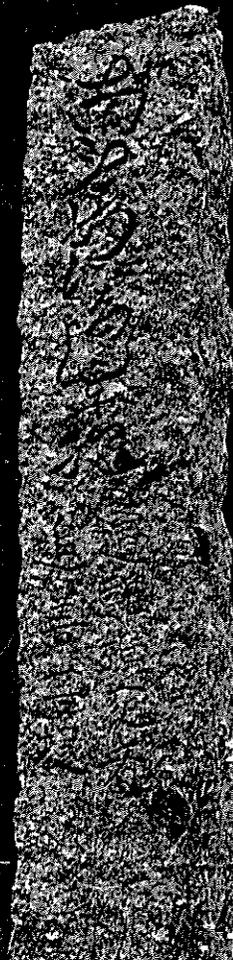
昭和28年8月14日、人びとは夕餉の膳に向かっていた。降りしきる雨は、やむ気配もなく、妻や子は不安気に父親の顔をうかがっていた。「よう降りよる、そやけどもうじき止むやろ」自分自身の不安を打ち消すように父親は、立ち上った。窓から眺める光景は、すさまじく、もはや道という道は川と変じ、時折、稲妻が光り雷鳴が周囲にとどろきわたっていた。そして、15日未明、雨は激流となって和束川に流れこみ、平和な和束の町は、一瞬のうちに泥海と化したのであった。

夫は妻を ^{いづれ}そして子らの名を
幼気なき者は ^{はなは}母を父を
呼びかわすその声も ^{はなは}泣き叫ぶその声も
奔る流れの中に ^{いづれ}ただ空しく——

死者及び行方不明 112人、負傷者94人、住宅の被害戸数1045戸、こうして南山城水害は未曾有の被害をもたらしたのであった。

緑濃き ^{やまなみ}この山脈に
瀬音も高き ^{ながれ}この溪流に
喜々として笑みかわし 日かな送りし友は今なく
夏は逝かんとす

この山脈に ^{ながれ}この溪流に
我ら今、鎮魂の思いをこめて 君に誓う
この美しい山河に ^{うた}悲しき詩の響き 絶やさんことを——



発行／和束町役場庶務課 発行年月日／昭和48年8月1日 京都企画印行〈製版／関西プロセス〉

ノーモアの願いをこめて

皆様には愈々ご健勝でご精進されている事を心からお慶び申上げ、敬意を表する次第であります。平素は町政のため何かとご協力ご援助賜り厚く御礼申し上げます。

さて思い起こすもあらた、山紫水明の地を一夜にて荒蕪たる修羅場にしたあの南山城水害。あれから早や20年の星霜がすぎました。私たちは、亡き百余名の犠牲者に心から哀悼の誠を捧げ、一日も早く郷土を復興し御霊に答える事を念じつつ、それぞれの持場に於て皆さんの懸命なご努力が大きき災を結び、今では見違えるばかりの町づくりが出来たのであります。しかしながら、ここまでになるには国や府関係ご当局の多くのご指導、ご援助も忘れることはできないのであります。山あいの小川にまで砂防えん堤が築かれ、再び大きな災害が起こらないよう万全の備えはしておりますものの、自然の力はまだまだ大きいものがあります。昨年も今だ傷跡生々しい撰原の災害。尊い4人の人命を奪いました。今後このような自然の暴力から皆さんの生命と生活を守るためにはお互いの力の結集がぜひ必要である事を痛感するものであります。

南山城水害20周年を迎えるに当り、痛ましい犠牲となられた方々のごめい福をつつしんで心からお祈りし、よりよい町づくりと併せて防災対策強化のために邁進する決意であります。どうか一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昭和48年8月

和東町長 前田 伴之



前田伴之町長

運命の日昭和28年

8月15日!

未曾有の大水害

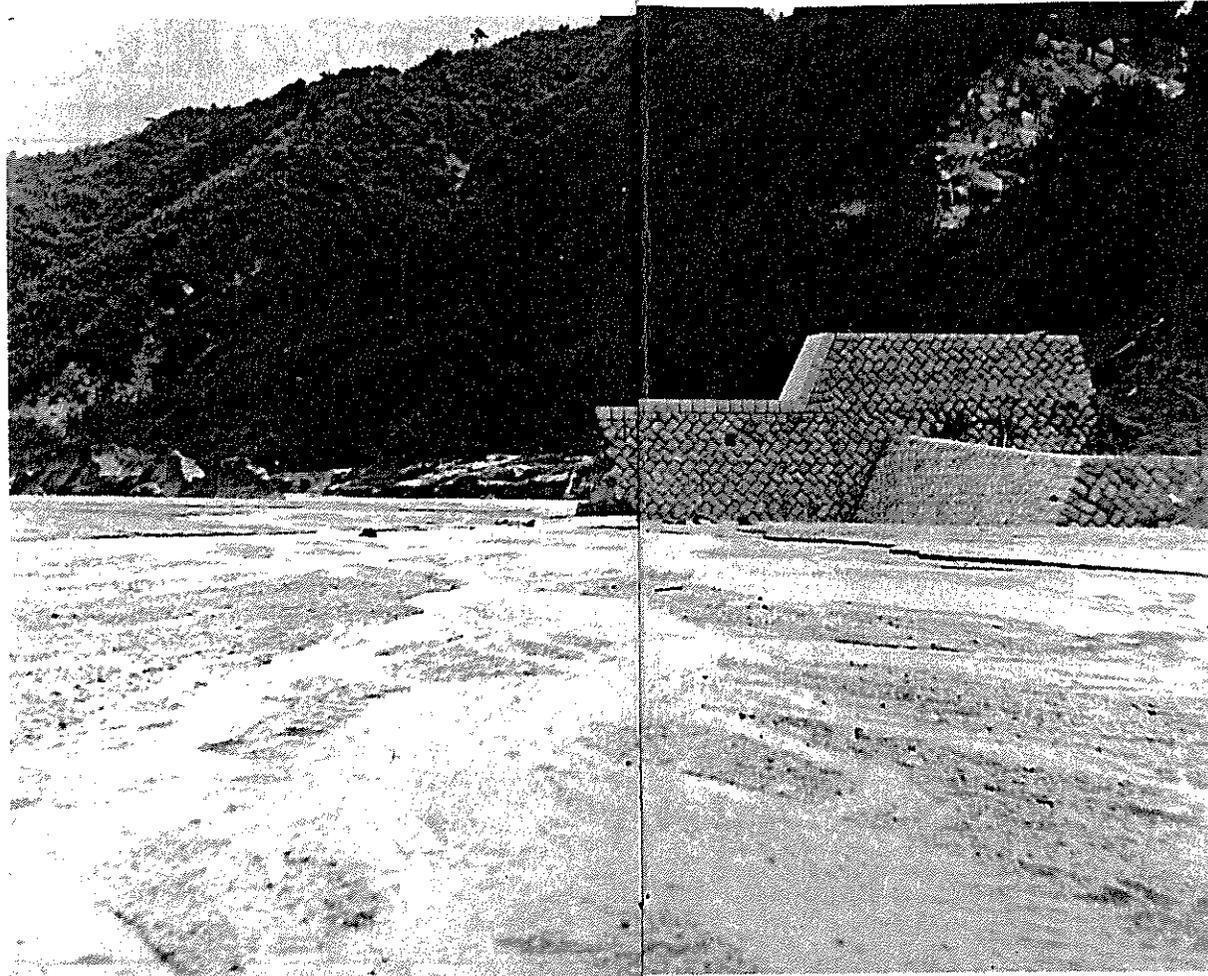
昭和28年8月14日は蒸暑い薄曇りの日であった。ちょうど南方洋上から920ミリバールの台風第7号が次第に北上しつつあり、1012ミリバールの太平洋高気圧との間に日本列島が気圧の谷間にあり、千島に位置する992ミリバールの低気圧から南西に伸びる停滞前線が近畿北部にあって次第に南下の傾向にあるという気象状態であった。しかし特別気象特報や注意報の発令はなかった。夕刻より徐々に雨雲が厚くなり、午後6時半頃よりポツポツ雨が降り出し、遠い稲妻が時折遠雷と共に南西の方角に無気味に光った。

8月15日午前1時頃より降雨は本格的となり、激しい電光と雷鳴は和東の天地を直撃してその降雨の状態はまさに一挙にバケツの水をぶっかけるがごとく、その凄惨さは筆舌に形容し難く、実にこの世の終りを思わせるほどであった。しかもそれが午前5時頃迄連続4時間の永きにわたって続き、ために和東川は平常水位より約6メートルの増水、各支川も増水し遂に和東地方に未曾有の惨害を齎らせた。その降雨量は雨量計の破損で詳らかではないが、その時間雨量100ミリともいわれ、

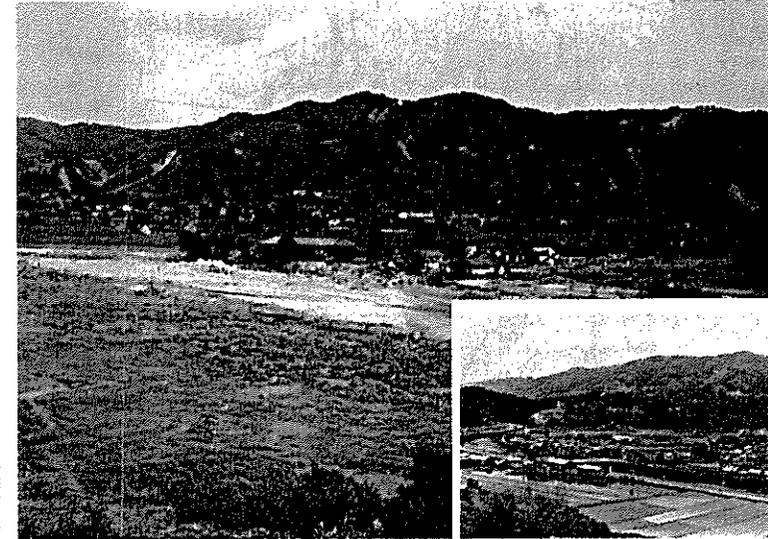
死者並びに行方不明者 111人、負傷者 94人、罹災者 5232人、住宅の被害戸数 1045戸

その他中和東村農協は流失、中和東村役場、中和東村小学校、和東診療所、和東郵便局は一部流失、他は全壊し、その他道路の決壊、橋梁の流失、田畑の流失、埋没、冠水、山林の崩壊等は枚挙にいとまなく、罹災者は学校区公民館、寺院等に収容、災害救助法は8月15日～同28日まで発動せられた。

その間日用品並びに食糧は相楽郡内消防団員等の人肩に依る輸送や、アメリカ進駐軍のヘリコプターの空輸を受け、応急住宅資材もこれに依って輸送を受けた。



決壊した三段堰堤



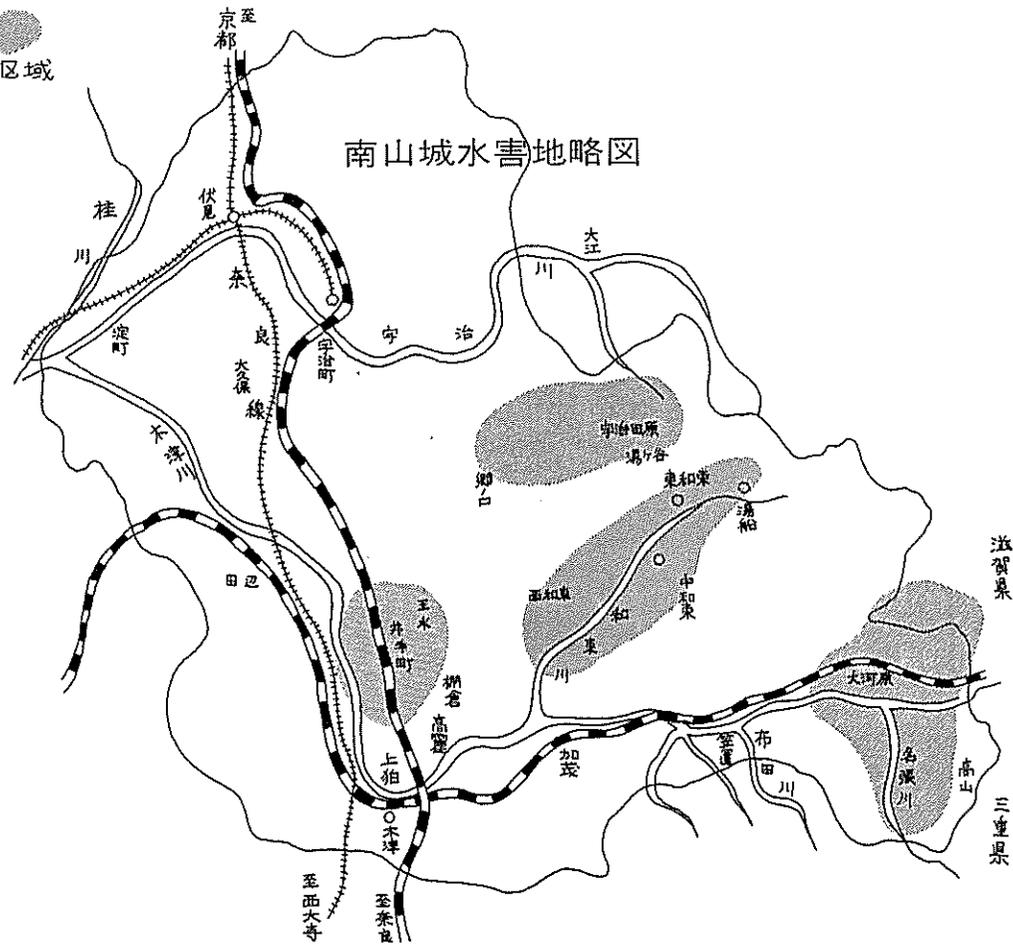
壊滅した和東銀座と現在の姿



崩壊流出した人家

(注)

被災区域



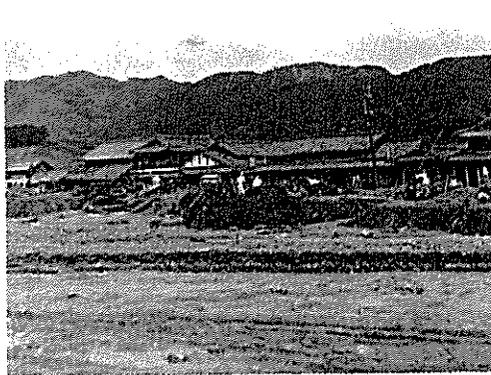
●南山城地区町村別水害被害状況

(28. 9. 15現)

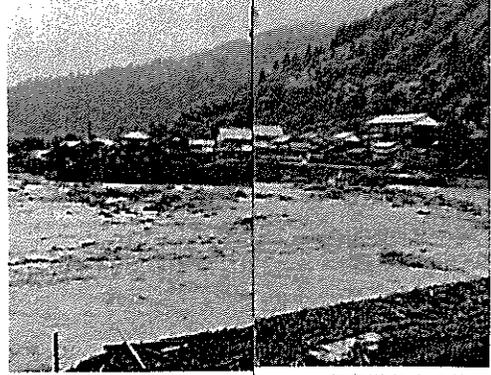
状況	地区別	相 模 地 方 事 務 所 管 内												計		
		期 倉	高 麗	精 華	加 茂	西和東	中和東	東和東	高 船	笠 置	大河原	高 山	本 津		上 粕	
罹 災 者 總 数		1,305	517	360	1,294	896	2,163	1,618	555	339	1,200	1,004	—	85	11,336	
人 的 被 害	死 者	22	6	—	—	2	51	5	—	1	14	3	—	—	104	
	行 方 不 明	2	1	—	—	3	50	1	—	3	37	—	—	—	97	
	負 傷	40	8	—	—	3	11	2	2	2	21	—	—	—	89	
傷	重 傷	520	34	1	15	10	41	15	10	13	69	5	—	—	733	
	計	584	49	1	15	18	153	23	12	19	141	3	—	—	1,023	
住 宅 的 被 害	全 壊	戸 数	31	7	2	2	9	34	21	16	5	47	15	—	—	189
		人 員	147	40	12	6	44	188	98	97	22	238	86	—	—	978
	流 失	戸 数	11	10	—	7	20	78	3	24	10	45	—	—	—	203
		人 員	52	52	—	27	73	346	22	119	39	179	—	—	—	909
	半 壊	戸 数	67	14	4	6	25	20	17	24	9	37	53	—	—	276
		人 員	306	77	28	34	117	94	80	138	47	235	257	—	—	1,413
浸 水	床 上	戸 数	50	33	6	43	1	119	30	20	34	25	38	—	—	399
		人 員	267	187	27	203	6	610	158	105	187	116	168	—	—	2,034
	床 下	戸 数	101	32	65	200	125	180	261	18	8	82	120	—	—	20
		人 員	533	161	293	1,024	656	925	1,260	96	44	432	493	—	—	85
計	戸 数	260	96	77	258	180	431	332	102	66	236	226	—	—	20	
人 員	1,305	517	360	1,204	896	2,163	1,618	555	339	1,200	1,004	—	—	85	11,336	
非 住 宅 的 被 害		220	45	40	—	116	182	91	119	35	175	76	—	—	1,100	
田 畑 的 被 害	流 失 埋 没	戸 数	130	57	1	29	83	67	50	30	16	108	67	—	—	658
		人 員	17	27	524	432	14	31	8	13	53	8	89	324	35	1,575
	冠 水	戸 数	50	20	3	17	37	53	38	26	9	19	34	—	—	309
		人 員	39	13	39	50	5	2	1	—	4	3	12	78	25	271
計	戸 数	236	117	567	528	139	153	97	69	82	138	202	402	83	2,613	
人 員	52	25	3	26	129	221	162	397	25	64	51	—	—	—	1,155	
道 路 決 壊	戸 数	17	7	2	4	16	25	19	25	11	20	19	1	—	166	
橋 梁 流 失	戸 数	29	16	8	28	52	75	63	82	38	180	69	—	—	640	
堤 防 決 壊	戸 数	2	1	—	—	—	—	—	—	1	2	—	—	—	6	
鉄 道 不 通	戸 数															



和東川原の惨状



泥海と化した和東川



和東川上流の惨状



惨々たるみどり橋付近



旧中小学校本館前の砂礫

復興への道のり その 苦難をのりこえて

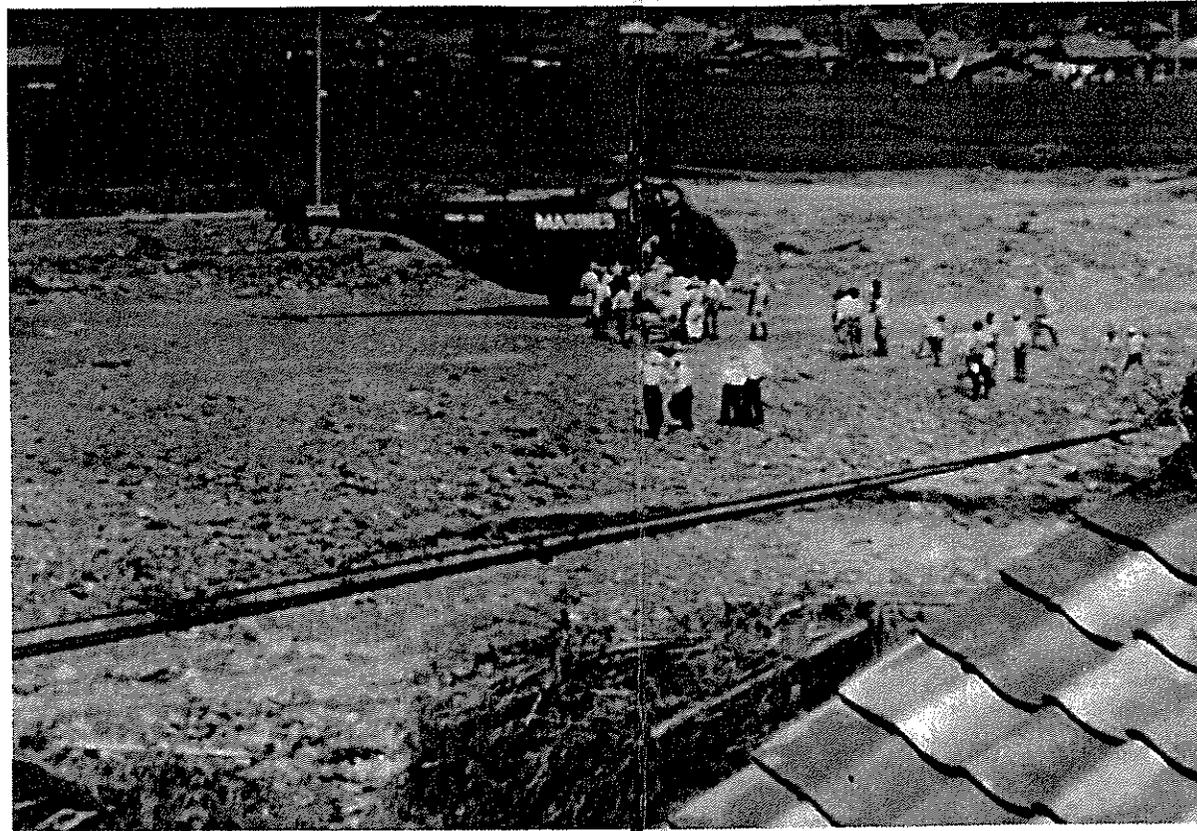
懸命に 必死に

8月15日の黎明と共に雷鳴も降雨もおさまり、その後は天候急速に回復し、午前9時頃には氾濫していた和東川の水位も一挙に下がったが、和東川に架る橋梁は全部流失、電話線並びに電気幹線も完全に流失、破壊され、かつ和東を東西に縦断する府道木津水口線も寸断せられたので外部との連絡はまったく途絶した。ために和東地方に於けるこの災害状況の外部関係各機関への報告は遅れ、ようやく翌16日のラジオ、新聞に取扱われるという結果であった。

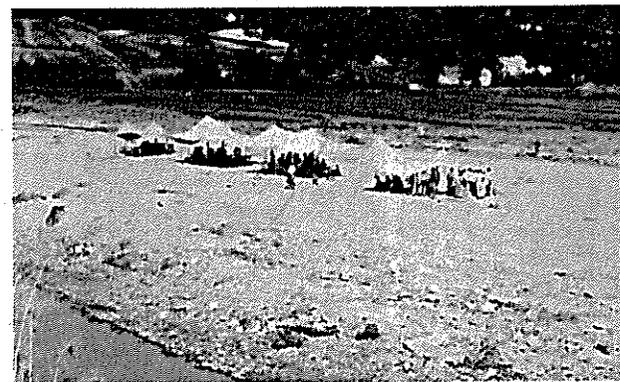
京都府庁には直ちに災害救助隊が設けられ、相楽地方事務所に相楽支隊本部を設置、医療救護班、給水班、防疫班の派遣となり、被災者の救助並びに応急復旧作業の援助を受けた。

災害発生と共に和東各村の全ての団体は出動し、なかんずく消防団に於ては被災家屋の除去に、行方不明者の捜索に、日用品並びに食糧の運搬に、道路橋梁の応急復旧作業等に従事した。又各村内の各種団体もそれぞれ災害対策本部の計画により避難者の救済に当たった。

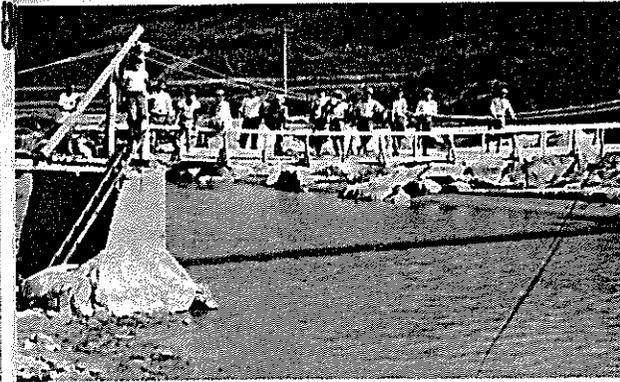
災害復旧の中でも緊急を要するものは、通信線、電気幹線の復旧であり、食糧の確保、道路橋梁の応急復旧であり、罹災者の救済であった。ことに住宅を失った罹災者の応急住宅の建設はこの際急務とされ、これには関係機関の絶大な援助を必要とするものであったが、幸い迅速なる復旧態勢のもとに、住民の協力と相俟って通信線、電気幹線も復旧、またバス路線も急設、災害後1ヵ月余で国鉄バスが運行せられ、ことに嵯川知事の配慮によって、府道と東宇治線の前身である木屋一河原間5キロ余の道路が全くの短期間の間に新設開通した事は本災害復旧を大いに促進する結果となった。



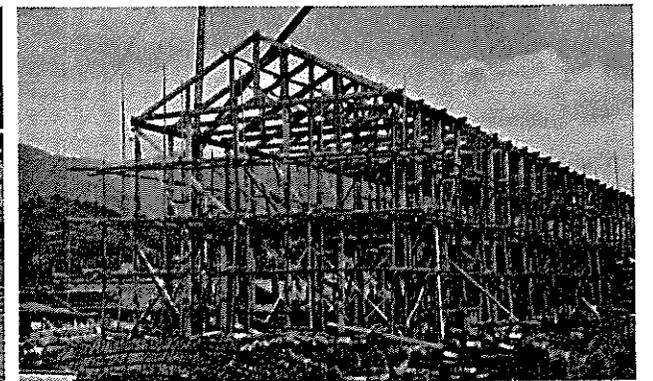
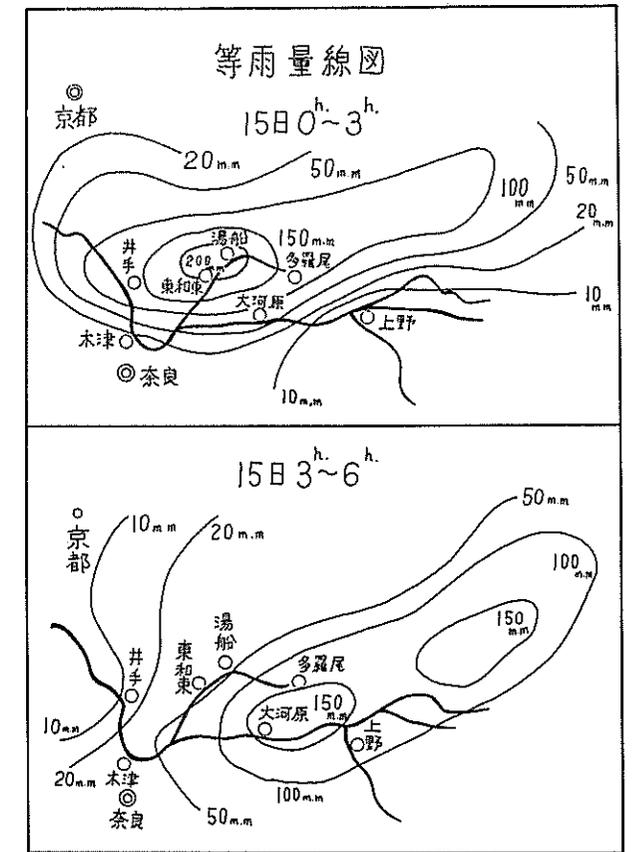
ヘリコプターも救援に活躍



川原に設けられたテント対策本部



急拠設けられた高橋の仮橋



早くも学校校舎の再建

あれから20年 よみがえったまち

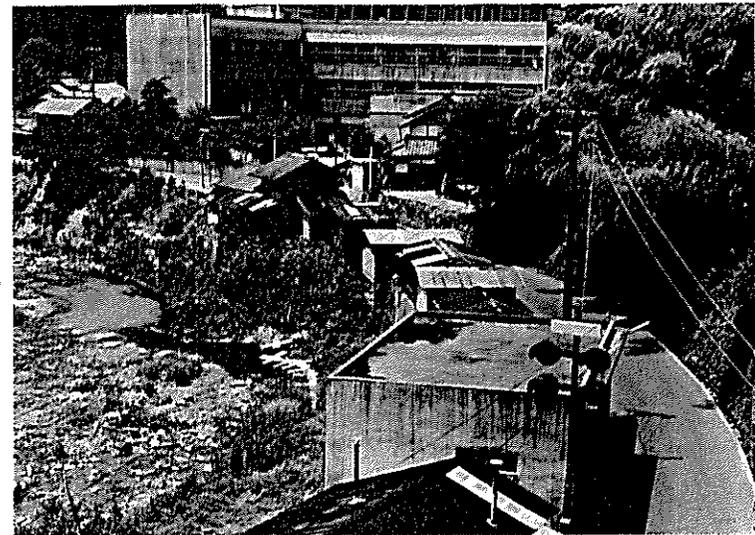
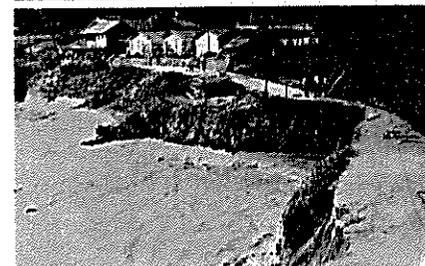
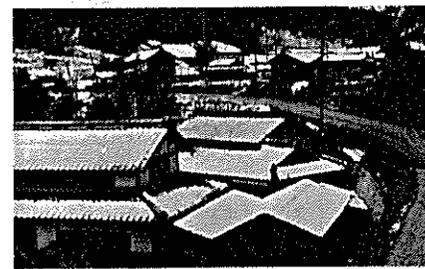
子どもたちの笑顔の中で

南山城水害から早や20年——災害の翌年の昭和29年に東・中・西の三和東村は合併して和東町となり、昭和31年湯船村がこれに合併、1600世帯、7000人の和東町となった。以来住宅、道路、河川、橋梁、農地、山村、公共施設等の災害復旧は急速に進み、加うるに日本の経済成長に同調して本町の産業経済も著しい発展をとげ、災害のため毎年度累積赤字を出していた本町の財政状態も次第に好転し、教育、医療、社会福祉、産業など町内に於ける施設を充実することができた。

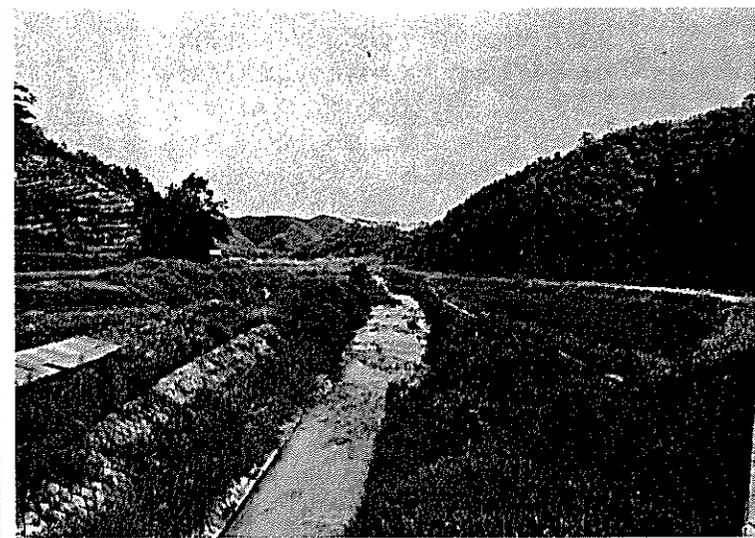
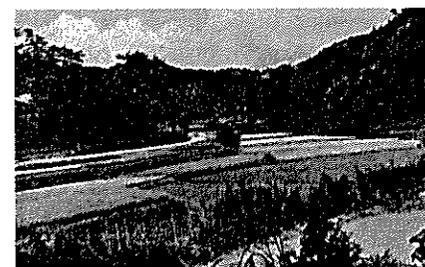
今災害当時の崩壊した惨憺たる山や川を険の裏にする時、20年の推移の中に現在の和東町の姿はまさに驚異に値するものがあり、これは国や府、その他関係機関の援助があった中で、和東住民の不屈な復興への血の滲むような努力が、当時夢にも見なかった平和郷・和東町の建設となった訳である。

すなわち当時の荒廃した和東川の川幅は拡張され、護岸は堅固に復旧、これに架する橋もコンクリートの永久橋となった。引掻かれた赤土の山肌は今は見当たらず、砂防の防災工事の施行によって本来の緑は還って美林となり、四季折おりの情景を変え、住民の心もこの良い環境に次第に落ち着きを取り戻し、今は健康で明るい生活を送られている事は、真に当時と比較した時欣喜の次第である。

今日本のいたるところ山は削られ、川は汚染され、青空は失われて行く中で、和東町こそこの急速に悪化する環境の中で、自然の緑を護り、清冽たる川水を守り、明澄なるこの空の色を護り、皆の平和郷——われらの故郷・和東町を未来永劫に存続させて、真に災害のない安住の地としなければならない。



湯船地区の変遷(水害以前→惨状→現在)



農業施設等の変遷(水害以前→惨状→現在)

すすむ災害対策

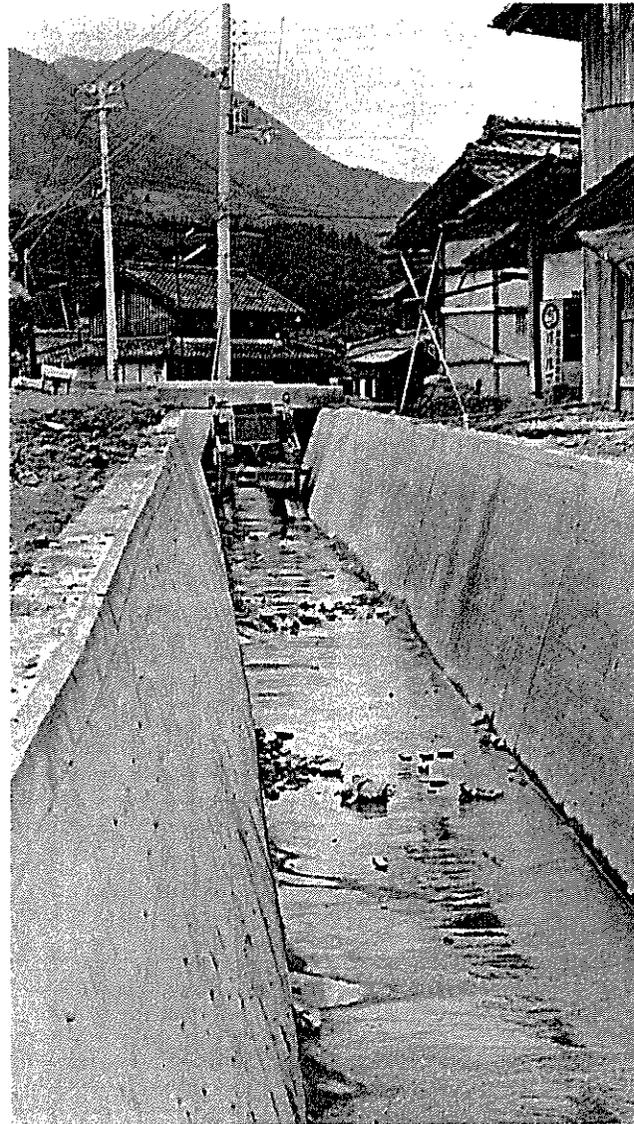
再びくりかえすな

“災害は忘れた頃にやってくる”——これは言い古された名言ではあるが、災害は忘れなくとも来る事は最近の情勢である。ことに地球の両極端の冷却部から世界的な変動の気象状態が続き、それが原因かのような災害が頻繁に來襲する。昭和28年も全国的に災害が多く、集中豪雨や台風の上陸が多かった。7月の阿蘇山系や有田川、紀ノ川の集中豪雨、13号台風などがあり、13号台風は兩台風となり、和東川は再び氾濫し急造仮橋を流失させた事も記憶に甦る。

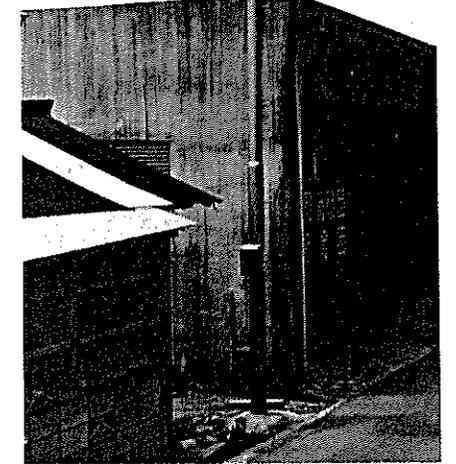
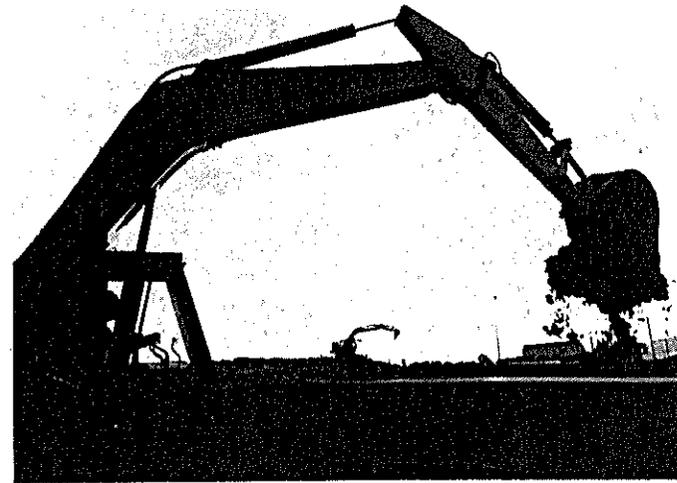
昨年の7月豪雨は全国的に災害を惹き起こし、本町もこの集中豪雨の直撃を受け、町内各所に被害を出した中で、尊い四人の住民の生命を奪い、住宅、宅地、河川、農地、山林などに4億5000万円の損害を与えた。これは昭和28年災害以来の大災害であったが、当町に於てはいち早く災害復旧事業を国及び府の援助を受けるとともに、関係機関や町民の協力を得て進めている。

一方防災対策は計画的に進めており、とくに対豪雨については、本町の地形上の見地からこれに応じた対策を進めているが、危険地帯が多く一挙に防災対策の実施は無理であって、これの完成までは、災害危険地帯に住む住民に対しては避難計画をたてるとともに、これの避難命令の徹底、避難場所の指定、避難者の収容等細部に渉る計画も作成、万一に対処できるようにしている。また非常の場合の住民の避難警告、避難命令の徹底等も町内関係機関との連携を密にし、少く共災害から人命を守る事の防災態勢はとっているが、これには住民の協力があつてはじめて目的が達せられるものである。

「再び災害を繰返すな」を合言葉に、今昭和28年南山城水害20周年を迎え、不幸にしてこの災害の犠牲となられ、今は亡き人びとに謹んで合掌し、ご冥福を祈るとともに、町内各関係団体、町住民のご協力を得て、防災対策に万全を期するための努力をする事を誓うものである。



放水路の改修工事も万全を



緊急事態を知らせる信号灯も設置されて



完成した和東川の堤防